

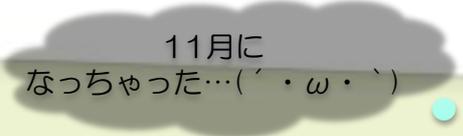
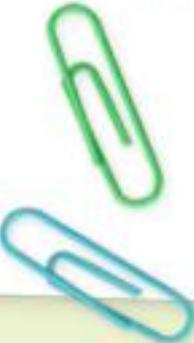


評価のメタモデルと質問セット

南山大学大学院 数理情報研究科 数理情報専攻 ソフトウェア工学専修

M2012MM022 森下 月菜

指導教員 青山 幹雄



11月に
なっちゃった…(´・ω・`)



発表のシナリオ

- ◆ 前回までのスケジュール
- ◆ 前回のおさらい
- ◆ 評価のメタモデル
- ◆ 前回の資料(ナンバリング)
- ◆ 質問セットの作成状況
- ◆ 今後のスケジュール



前回までのスケジュール

今回の話題
もここ

直近

◆ 11/2 ~ 11/7

- ◆ 質問セットの作成
- ◆ 評価方法の調査

◆ 11/7 ~ 11/13

- ◆ 検証の下準備
 - ◆ 検証の手順の決定
 - ◆ SRSの構成の理解

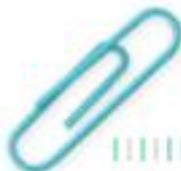
◆ (11/1, 3, 4 聖南祭準備, 当日)

最終発表まで

- ◆ 11月中旬 : 質問セットの完成, 検証の準備完了, 妥当性定義
- ◆ 11月下旬 : 検証開始, 不足の品質特性・質問項目の特定・再検討・再検証
- ◆ 12月上旬 : 検証の続き, 本稿執筆準備開始
- ◆ 最終発表まで : 質問セット定義, 評価方法の妥当性定義,
提案方法の妥当性検証

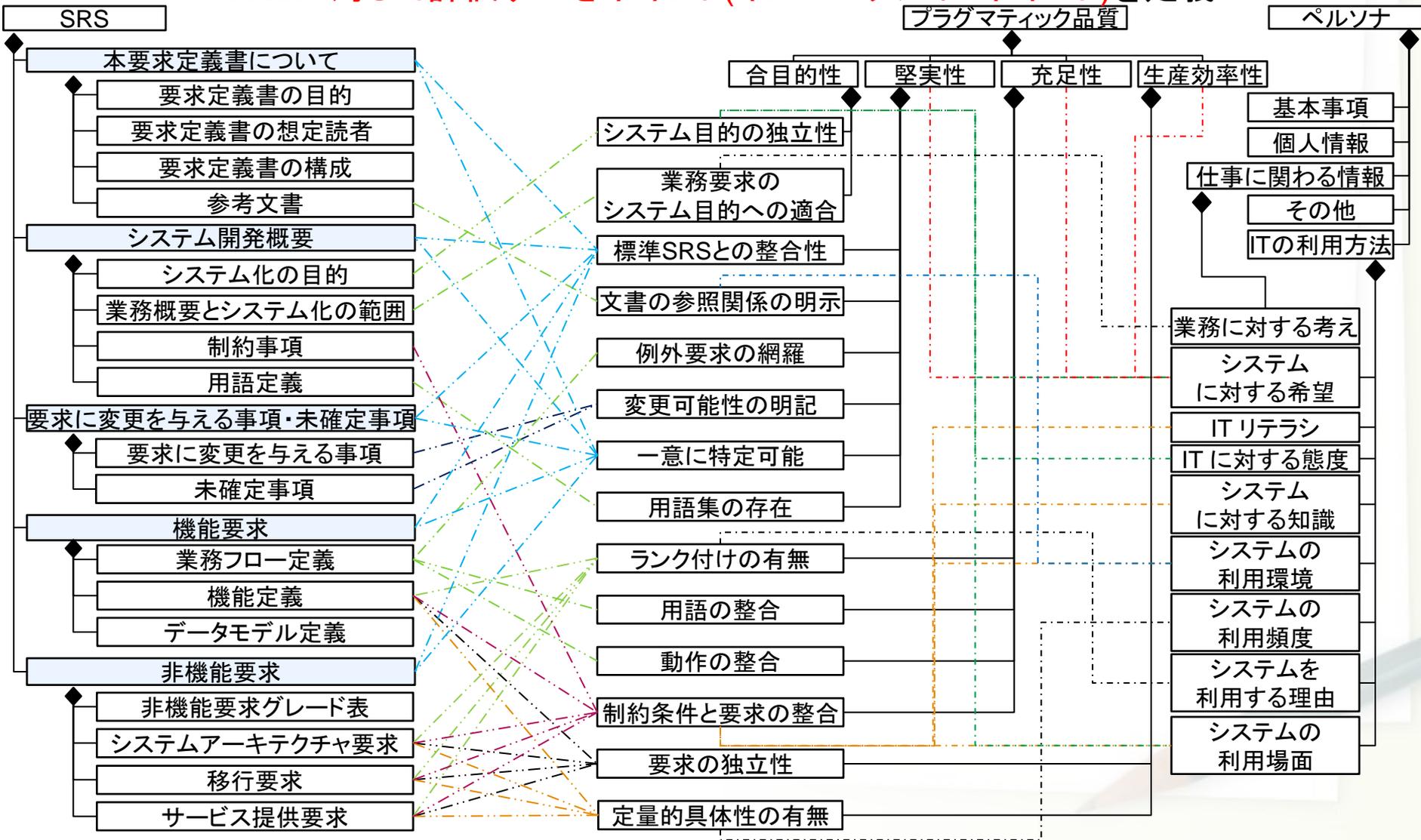
11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

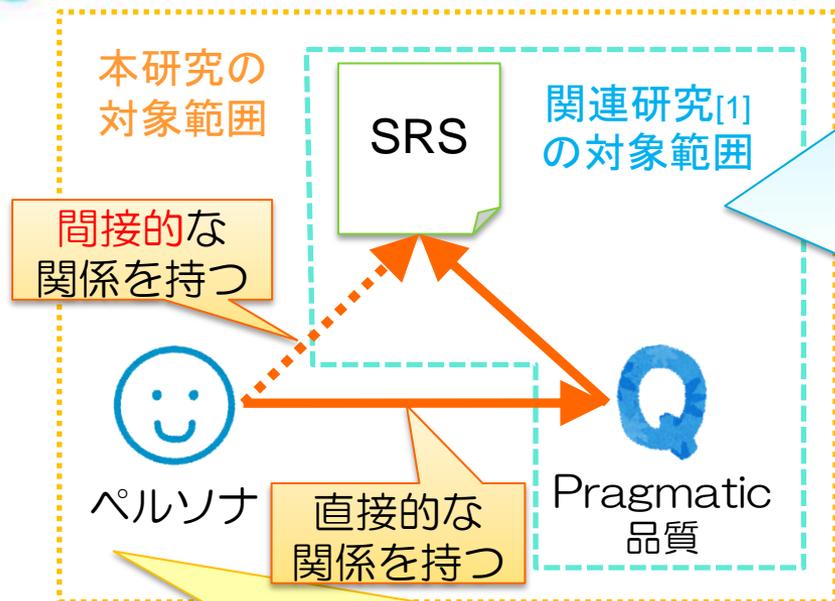


前回のおさらい : プラグマティック品質との関係

- ◆ SRSの目次とプラグマティック品質とペルソナの関係を定義
- ◆ SRSに対して評価すべきポイント(インスペクションポイント)を定義



前回のおさらい : 質問セットの作成ポイント



SRSとプラグマティック品質の
対応から成る2次元(インスペクション
マトリクス)でSRSを評価可能

		標準SRSの目次			
合目的性	副品質特性				
記述項目 網羅性	副品質特性				
明確性	副品質特性				
内部追跡 可能性	副品質特性				

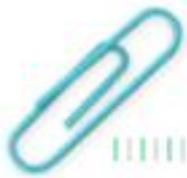
ペルソナの要求を考慮して
SRSを評価する必要があるため
実質的には3次元でSRSを評価

		標準SRSの目次			
合目的性	副品質特性				
生産効率性	副品質特性				
堅実性	副品質特性				
充足性	副品質特性				

+ ペルソナの
プロパティ

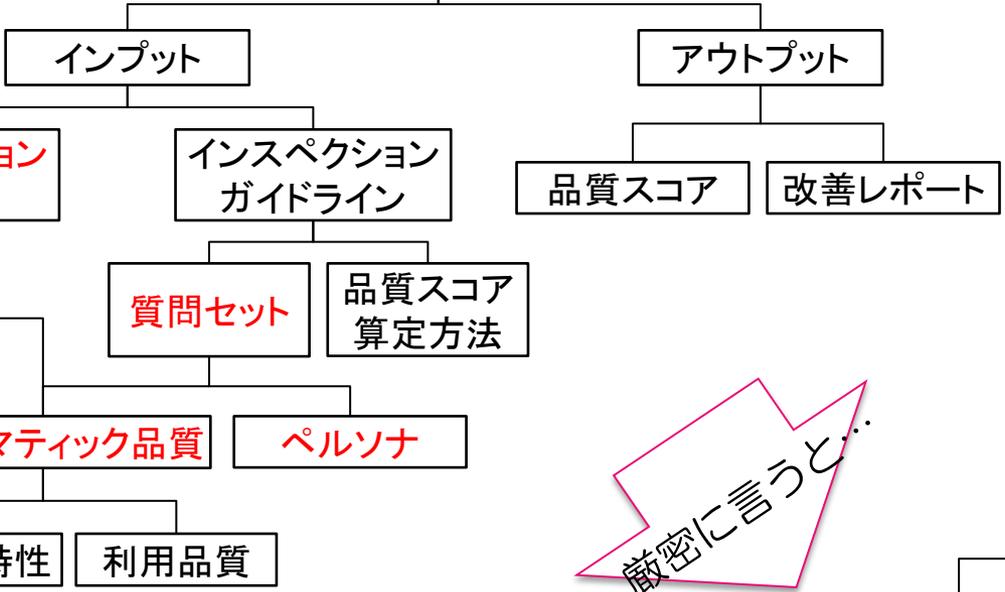
ペルソナとプラグマティック品質の関係によって
質問を2つ以上設定する必要がある

まとめられれば
それに越した
ことはない



評価のメタモデル

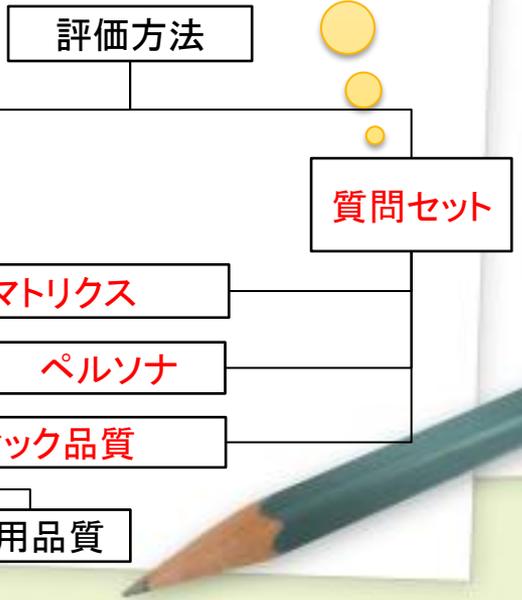
ユーザの観点からの
インスペクション方法



質問セットは
マトリクスで指定された箇所
に対して作成される

厳密に言うと...

評価について
3次元と捉える
ことができる所以



赤字部分は本研究のオリジナルの要素

前回の資料 : SRSとプラグマティック品質の関係

※●はインスペクションポイントを示す

※●は必要性を考え追加したポイントを示す

				S3 : 【3章】要求に変更を与える事項・未確定事項		S4: 【4章】機能要求			S5 : 【5章】非機能要求			
				S3-1	S3-2	S4-1	S4-2	S4-3	S5-1	S5-2	S5-3	S5-4
				要求に変更を与える事項	未確定事項	業務フロー定義	機能定義	データモデル定義	非機能要求グレード表	システムアーキテクチャ要求	移行要求	サービス提供要求
U1	合目的性	U1-1	システム目的の独立性				●					
		U1-2	業務要求のシステム目的への適合									
U2	生産効率性	U2-1	定量的具体性の有無				●			●	●	●
		U2-2	要求の独立性				●			●	●	●
U3	堅実性	U3-1	標準SRSとの整合性	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		U3-2	文書の参照関係の明示									
		U3-3	例外要求の網羅			●	●					
		U3-4	変更可能性の明記	●	●							
		U3-5	一意に特定可能	●	●	●	●	●	●	●	●	●
		U3-6	用語集の存在									
U4	充足性	U4-1	ランク付けの有無				●			●	●	●
		U4-2	用語の整合			●	●	●		●	●	●
		U4-3	動作の整合			●	●	●				
		U4-4	制約条件と要求の整合				●	●		●	●	●

前回の資料：プラグマティック品質とペルソナの関係

- ※●はペルソナとプラグマティック品質の間に関係があるポイントを示す
 ※●は必要性を考え追加したポイントを示す

		P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9
		業務に 対する考え	システムに 対する希望	IT リテラシ	ITに対する 態度	システムに 対する知識	システムの 利用環境	システムの 利用頻度	システムを 利用する理由	システムの 利用場面
合目的性	システム目的の独立性		●		●				●	●
	業務要求の システム目的への適合	●	●				●		●	●
生産 効率性	定量的具体性の有無		●					●		
	要求の独立性		●							
堅実性	標準SRSとの整合性		●							
	文書の参照関係の明示		●				●			
	例外要求の網羅		●							
	変更可能性の明記		●							
	一意に特定可能		●							
	用語集の存在		●							
充足性	ランク付けの有無	●	●						●	
	用語の整合		●							
	動作の整合	●	●						●	●
	制約条件と要求の整合			●		●	●			●

質問セットの作成状況

◆ 現在の質問セットの設定

PQM		ペルソナ	SRS (インスペクション ポイント)	インスペクションポイントでの質問セット
品質特性	副特性			
合目的性	U1-1	P2, P4, P8, P9	S2-1	<ul style="list-style-type: none"> ◆システム化の目的がそれぞれ独立して記述されているか ◆システム化の目的は「システムに対する希望」や「システムを利用する理由」との間に矛盾はないか
			S4-2	<ul style="list-style-type: none"> ◆システムの目的ごとに独立して記述されているか ◆「ITに対する態度」に照らして利用できる機能か ◆システムの利用場面で利用可能か
	U1-2	P1, P2, P6, P8, P9	S2-2	<ul style="list-style-type: none"> ◆業務要求がシステム化の目的に対応して記述されているか ◆「業務に対する考え」と業務要求の間に矛盾はないか
生産 効率性	U2-1	P2, P7	S4-2, S5-2, S5-3, S5-4	<ul style="list-style-type: none"> ◆程度や規模が具体的に記述されているか ◆「システムに対する希望」や「システムの利用頻度」に照らし、使用に関する程度や規模に矛盾はないか
	U2-2	P2	S4-2, S5-2, S5-3, S5-4	<ul style="list-style-type: none"> ◆「システムに対する希望」に照らし、1つの要求に対して複数の要求が記述されていないか ◆「システムに対する希望」に照らし、依存した要求が記述されていないか

質問セットの作成状況

現在の質問セットの設定

PQM		ペルソナ	SRS (インスペクション ポイント)	インスペクションポイントでの質問セット
品質特性	副特性			
堅実性	U3-1	P2	S1, S2, S3, S4	◆評価対象のSRSは標準SRSに準拠して記述されているか
	U3-2	P2, P6	S1-4	◆情報源となる文書の参照先が記述されているか ◆「システムの利用環境」と照らし、参照する情報は正しいか
	U3-3	P2	S4-1, S4-2	◆ユーザが要求する例外について記述されているか
	U3-4	P2	S3-1, S3-2	◆将来変更する可能性のある要求について記述しているか ◆「システムに対する希望」に関わる要求に関する未確定事項に漏れはないか
	U3-5	P2	S1, S2, S3, S4	◆要求が識別子で一意に特定できるよう記述されているか
	U3-6	P2	S2-4	◆用語集は存在するか
充足性	U4-1	P1, P2, P8	S4-2, S5-2, S5-3, S5-4	要求の重要度の記述がされているか
	U4-2	P2	S4-1, S4-2, S4-3, S5-2, S5-3, S5-4	評価対象の記述内で各用語について意味や表現が整合しているか
	U4-3	P1, P2, P8, P9	S4-1, S4-2, S4-3	評価対象の記述内で各動作について表現が整合しているか
	U4-4	P3, P5, P6, P9	S2-3, S4-2, S4-3, S5-2, S5-3, S5-4	要求は制約条件を満たした状態で記述されているか

未確定

今後のスケジュール

直近

◆ 11/7 ~ 11/13

- ◆ 質問セットの作成 ← 今ここ
- ◆ 評価方法の調査
- ◆ 検証の下準備
 - ◆ 要求仕様書の検索
 - ◆ SRSの構成の理解
 - ◆ ペルソナ定義

◆ 11/15 ~ 11/20

- ◆ 検証開始

◆ 11/22 ~ 11/27

- ◆ 検証によってわかったことまとめ
- ◆ 不足の品質特性, 質問項目の特定
 - ◆ 品質特性と質問の再構築

最終発表まで

- ◆ 11月中旬 : 質問セットの完成, 検証の準備完了, 妥当性定義
- ◆ 11月下旬 : 検証開始, 不足の品質特性・質問項目の特定・再検討・再検証
- ◆ 12月上旬 : 検証の続き, 本稿執筆準備開始
- ◆ 最終発表まで : 質問セット定義, 評価方法の妥当性定義, 提案方法の妥当性検証

11月

日	月	火	水	木	金	土
					1	2
3	4	5	6	7	8	9
10	11	12	13	14	15	16
17	18	19	20	21	22	23
24	25	26	27	28	29	30

組込みだとペルソナが作り難いので、
Androidアプリなどの仕様書
がないか搜索中…



評価のメタモデルと質問セット

END

南山大学大学院 数理情報研究科 数理情報専攻 ソフトウェア工学専修

M2012MM022 森下 月菜

指導教員 青山 幹雄
